

B 92 超音波法による成人男女の皮下脂肪分布について

大妻女大 家政 ○松山容子・小山田桃子・大沼美奈子・柳澤澄子

大妻女大 人間生活科研 近藤四郎

目的：前回、超音波断層解析装置による皮下脂肪厚測定の有効性及び成人女子29名の体幹・体肢の皮下脂肪分布についていくつかの結果を報告した。本報においては、さらに被検者数を成人女子58名とし、また成人男子21名を加え、皮下脂肪分布の性差・個体差を観察し身体の外形的測定値などとの関連について検討を試みた。

測定項目：a. 超音波装置による皮脂厚測定値20項目（頸部・背部・肩甲下角部・胸部・腋前面部・側胸部・臍部・下腹部・腸稜部・側腹部・転子部・殿部・上腕後面部・前腕外側部・手くび部・大腿前面部・大腿内側部・下腿外側部・下腿内側部・足くび部）。

b. 外形的測定値として身長・体重および皮脂厚測定部位を通る周径、合計男子13項目、女子12項目。

結果：（1）皮下脂肪の沈着状態を平均値からみると、部位別には、男女共に殿部とウエスト周辺に皮下脂肪の沈着が多い傾向にある。男女では、女子が全ての項目で男子を上回っている。

（2）周径と皮脂厚値との相関係数は、男子の臍部皮脂厚と中胴囲（0.87）、女子の側腹部皮脂厚と胴囲（0.65）で高い値を示しており、一方、男女共に下腿外側部皮脂厚と下腿最大囲（男0.05、女0.10）の相関は低い。

（3）Rohrer示数と皮脂厚値との関係では、多くの部位で相関が有意であったが、男子では臍部0.82に対し殿部0.19と部位によって関連性の強弱がみられる。

（4）皮下脂肪の沈着状態は、男女共に個体差が大きく、特に女子においては顕著である。